

東京造形 大と連携 フォーラム事業展開

新たなエコ産業の創出に取り組む神奈川県は、東京造形大学と連携し学産公共同プロジェクトとして「サステナブルデザインフォーラム事業」を展開していく。同事業はシンポジウムでの話題提供、ビジネスシーズや課題抽出、学生や企業を交えたワークショップにおける検討などを通じて新たなビジネスモデルを作り上げる取り組みで、年間を通じた事業の結果を成果発表会、発表する。同県もメンバーとなっているエコ産業創出協議会(事務局・アマミタ)の協力も得て、フォーラム事業の成果をビジネスにつなげたい考えだ。

総会フラッシュ

会員は意識改革を

東京産廃協



原山会長

職している。理想的な協会には、個性のあふれた会員で構成する個性的な協会。会員一人ひとりの個性の充実、深い情念と行動力が大事であり、その可能性の芽を育て上げるのが協会の責務である」と語った。

業界の繁栄や市場拡大に努力

溶剤リサイクル工業会



川瀬会長

として従来の各研究部に加え若手研究者の研究活動支援を実施していることなどを決めた。

エコ産業創出協も協力

同県では京浜臨海部に新たなエコ産業を集積させることも、既存産業の環境配慮型ビジネスへの転換や

会は先月二十六日、第一回定期総会を東京都千代田区のパレスホテルで開催し、今年度の事業計画などを決めた。

総会では冒頭、川瀬泰淳会長が「昨年度に二〇周年を無事迎え、会員も二四社まで増加した。業界の更なる発展を期す」と述べた。

合理化部会を廃止 新たに2部会新設

環境連

全国環境整備事業協同組合連合会は先月二十日、第三回総会を東京都千代田区の如水会館で開催した。総会では合理化部会を廃止し事業部会と合理化新規許可対策部会を新設する部会

「(履き直し)などのエコシフト化を研究している。こうした活動の一環として、新たにサステナブルデザインフォーラム事業を立ち上げた。安全で自然環境との調和を図りつつ発展することのできる持続可能な社会システムを支える新たな産業の可能性や企業の役割についてデザインの切り口から取り組み、新たなビ



井出会長

また、役員の変更が行われ、辻喜博氏(中日本建設コンサルタント顧問)が顧問に返り、新たに井出宏氏(建設技術研究所専務取締役技術本部長)が新会長に就任した。総会後の懇親会で井出新会長は「PRで重要な役割の一翼を担い、技術者集団として誇りを持って仕事をしていく方針だ」とあいさつした。

自治体の廃棄物処理コスト分析を明記

環境省は二十六日、〇一年の告示第三四号「廃棄物の減量その他適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基



石井会長

千葉県産廃協会の第四〇回定時総会が先月二十六日、千葉市のホテルサンガーデンで開催された。あいさつに立った石井邦夫会長は「国が進めている優良化制度は、我々にとっては避けて通れない関門である。一人でも多くの会員が基準を達成してほしい」と同制度への理解と協力を呼び掛けた。また山上毅副会長が春の叙勲で旭日単光章を受章したことも報告した。

東京産廃協会は先月二十五日、第四三回定時総会を開催した。昨年度の事業、決算報告の承認のほか、岡山大学の田中勝教授の講演(国際時代における廃棄物マネジメント)などが行われた。



山本会長

総会後の懇親会で原山進会長は、「協会の体制整備を進めてきたが、立派な体制を作ってもそれを機能させるのは会員一人ひとりの力である。会員の方々の意識改革こそが今必要だと認



玉川会長

総会後の懇親会で玉川福和会長は「維持管理の面で今更だすべきでない部分があったが、今後会員各社は分かれにくい部分を誰からも分かれやすい業務とするなどで画重点とした」とあいさつした。



松澤会長

井出宏氏が新会長に就任

日本産廃物コンサルタント協会は先月二十六日、第二回通常総会を東京都千

「新潟中越地震に学ぶ」で、新潟中越地震の現地報告を基に、安全で持続可能な社会生活を支える新たなビジネスモデルの可能性や、CSRの視点から企業の役割などを考えるのが今回のシンポジウムの趣旨。主催の神奈川県企画部環境部活推進課では、関係する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基